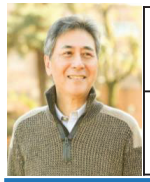
【学術変革領域研究（A）】

「尊厳学の確立：尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて」



領域代表者	梅山女学園大学・国際コミュニケーション学部・教授 加藤　泰史（かとう　やすし）　研究者番号:90183780
研究領域情報	領域番号：23A103　研究期間：2023年度～2027年度 キーワード：人間の尊厳、生命の尊厳、東アジアの尊厳概念、尊厳死、価値論

なぜこの研究を行おうと思ったのか（研究の背景・目的）

●**研究の全体像**

本領域研究は、新たな社会統合の理念として「尊厳」概念を鍛え上げるために、学際的・国際的な学術研究の場として、**「尊厳学」を確立する**ことを目的としている。

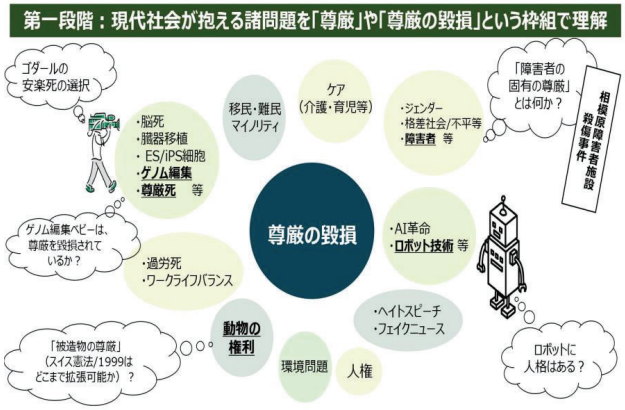


図1　尊厳と社会問題の関わり

●2度の世界大戦が巨大なカタストロフィを引き起こしたことを受けて、そうした惨劇を繰り返さないために「国連憲章」などに、**「人間の尊厳」**が国際秩序・社会秩序を支える理念として採用された。

●**「尊厳の毀損」の観点から**先端医療や高齢者介護、女性や障害者に対する差別、貧困や格差の問題、移民・難民の受け入れやヘイトスピーチ、生成AI・ビッグデータといった、現代社会の抱える社会問題を新たに発見する。

●動物やAI・ロボット、自然など**「人間以外の存在に尊厳があるかどうか」**といった問題も問われるようになっている。

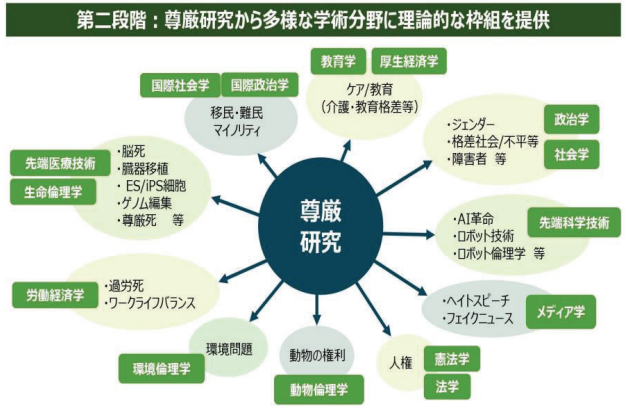


図2　尊厳研究と学術分野の関わり

●このように現代社会において重要な役割を担っているにもかかわらず、**「尊厳」概念**は明確に定義されておらず、**「人間の尊厳」**についてグローバルな共通理解もない。

●**「尊厳」概念**がどのような歴史を持ち、どう理解されてきたのか、また欧米以外の文化圏における**「尊厳」**の内実を研究することで、**「尊厳とは何か」**を文化横断的に明らかにする。

●それらの研究成果を現代社会の諸問題に取り組む多様な学術分野へ提供し、問題をより深く理解し、解決するための包括的な理論枠組を提供する。

第一段階と第二段階は、いずれも「個別的」で「対処療法的」な非包括的取組であるので、
「尊厳」に基づいてさまざまな問題を論じるため、「尊厳学」という新たな学問領域が必要！

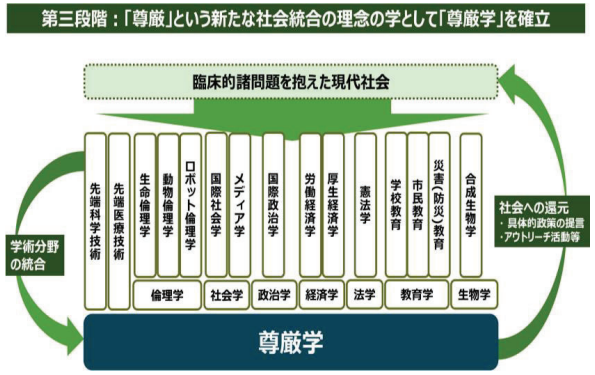


図3　尊厳学の確立

●コロナ禍において、多くの人々が将来の社会のあり方に不安をいだいており、**「尊厳」**への関心も高まっている。

●新たな社会統合の理念として「尊厳」概念を確かなものとし、社会実装するために、**「尊厳学」**という新たな学術の場を創設する。

●これまで個別に論じられていた問題を学術横断的に「尊厳」の観点から研究することで橋渡しし、今まで見過ごされていた問題を洗い出す。さらに、その研究成果を市民講座や学校教育、介護などの現場へと還元する。

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

●**「尊厳」についての「理論的・概念史的」研究と「臨床応用的」研究**を互いに関連させながら並行して進めることによって、包括的な「尊厳」理解を構築すると同時に、現代社会の様々な問題を解決する。

●これらの研究成果に基づいて、学校教育や市民教育への提言を実施し、**「尊厳」の「社会実装」**を遂行する。

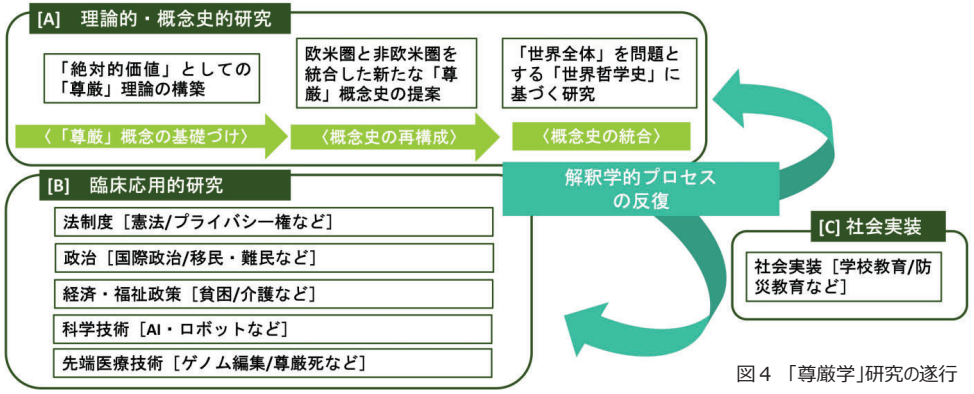
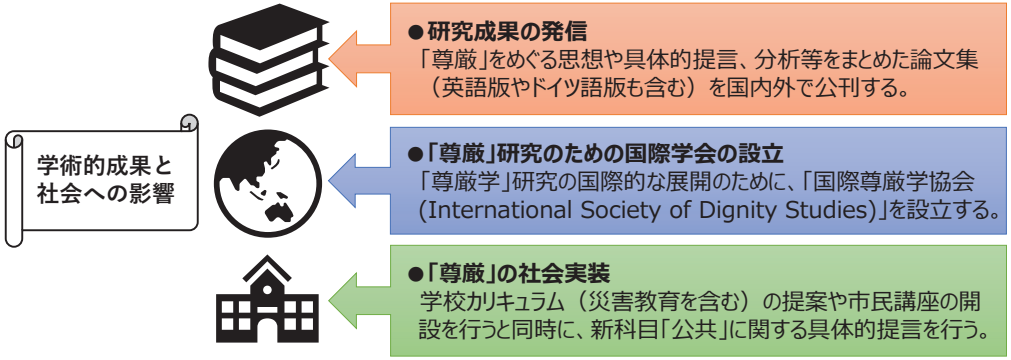


図４　「尊厳学」研究の遂行



ホームページ等	尊厳学: Dignity Studies　https://songengaku.jp/ 加藤泰史 研究室 オフィシャルHP　https://kato-yasushi.sugiyama-u.ac.jp/